

2022年度液体クロマトグラフィー (LC) 分析士 初段認証試験実施のお知らせ

標記につき、下記要領で実施する予定ですのでお知らせいたします。

日時 2022年6月8日(水) 14時~16時

会場 五反田文化会館〔東京都品川区西五反田1-32-2、交通：JR・都営地下鉄「五反田」駅より徒歩3分〕

初段資格のイメージ 各種分析士に共通するものとして、「指示をすれば一人で分析出来るレベル。当該分析・測定技術に関する基礎的知識及び関連する法令に関する知識を有する。」と規程されます。LC分析士においては「クロマトグラフィーやHPLCに関する基礎的知識と原理に対する理解が十分に有る」事が求められます。なお、試験問題としては科学の各分野並びに化学・分析化学一般に関する知識を問う内容が約50%含まれます。

受験料 5,500円(合格者は登録料2,200円を別途申し受けます)

申込方法 受験料の銀行振込後、専用ホームページ(<https://forms.gle/>)にアクセスして必要事項を入力してください。

申込締切 5月31日(火)。会場に定員制限がありますので、入金順に受験番号を発行します。なお、中止した2021年度のLC分析士初段試験に受験料を納入された方の受験料は不要ですが、連絡事項にその際に通知された受験番号を明記してください。

振込銀行口座 りそな銀行五反田支店普通預金0802349 名義：公益社団法人日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会((シャ)ニホンブンセキカガクカイエキタイクロマトグラフィー)。一度お振込いただいた受験料は返却しません。万一、コロナ禍等で試験が中止された場合には、次回の受験料を免除します。

問合せ先 (公社)日本分析化学会・LC研究懇談会・分析士認証専門部会[nakamura@jsac.or.jp]

2022年度LC/MS分析士初段認証試験実施の お知らせ

標記につき、下記要領で実施する予定ですのでお知らせいたします。

日時 2022年6月17日(金) 14時~16時

会場 五反田文化会館〔東京都品川区西五反田1-32-2、交通：JR・都営地下鉄「五反田」駅より徒歩3分〕

初段資格のイメージ 各種分析士に共通するものとして、「指示をすれば一人で分析出来るレベル。当該分析・測定技術に関する基礎的知識及び関連する法令に関する知識を有する。」と規程されます。LC/MS分析士においては「クロマトグラフィーやLC/MSに関する基礎的知識と原理に対する理解が十分に有る」事が求められます。なお、試験問題としては科学の各分野並びに化学・分析化学一般に関する知識を問う内容が約50%含まれます。

受験料 5,500円(合格者は登録料2,200円を別途申し受けます)

申込方法 受験料の銀行振込後、専用ホームページ(<https://forms.gle/uMTwAaAwPJPYBpaT7>)にアクセスして必要事項を入力してください。

申込締切 6月10日(金)。会場に定員制限がありますので、入金順に受験番号を発行します。なお、中止した2021年度のLC分析士初段試験に受験料を納入された方の受験料は不要ですが、連絡事項にその際に通知された受験番号を明記してください。

振込銀行口座 りそな銀行五反田支店普通預金0802349 名義：公益社団法人日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会((シャ)ニホンブンセキカガクカイエキタイクロマトグラフィー)。一度お振込いただいた受験料は返却しません。万一、コロナ禍等で試験が中止された場合には、次回の受験料を免除します。

問合せ先 (公社)日本分析化学会・LC研究懇談会・分析士認証専門部会[nakamura@jsac.or.jp]

2022年度イオンクロマトグラフィー分析士 (二段)試験

主催 (公社)日本分析化学会イオンクロマトグラフィー研究懇談会

イオンクロマトグラフィー分析士(以下、IC分析士)は、(公社)日本分析化学会分析士認証委員会が認証する資格であり、ICに関する知識・技量の向上、並びに我が国の分析界の発展に貢献することを目的としております。

IC分析士認証試験は、2019年からの世界的なパンデミックの影響を避けると同時に、全国のICユーザーが受験できるように、リモート方式での実施となります。リモート試験への移行にあたりカンニングの可能性を危惧される声もありましたが、リモート試験の専門業者にご協力いただき、その課題も解消しております。また、リモート試験を採用するにあたり、全国の受験希望者を受け入れることができるメリットもありますので、今後も継続いたします。

今回は、延期されておりましたIC分析士二段を実施いたします。IC分析士初段を登録されている方には、是非チャレンジしてください。

1. 試験日

1-1. 日時：2022年6月27日(月) 午後2時~午後3時30分(90分)

1-2. 試験方式：リモートによる筆記試験(50問、1問につき4つの選択肢から一つ選択)

1-3. 受験資格：IC分析士初段を登録されている方

1-4. 受験料：11,110円(税込)

2. 試験内容

二段では、高専・大学等の卒業程度の分析化学の基礎知識を20題(基礎)、イオンクロマトグラフィー(IC)を含む機器分析化学に関する専門的基礎知識を30題(専門)が出題されます。

基礎は、公設試や企業において水質管理項目で対象となるイオンや元素の基礎的な化学的性質の他に、高専や大学で学ぶ分析化学(pHの計算、解離定数等)や溶液化学(酸塩基、酸化還元等)に関する基礎知識を出題します。

専門は、企業や大学・研究機関等でICを含む分析化学の実務経験が5年程度のもので問う内容です。専門用語、分離機構、カラムと溶離液の関係、サプレッサの基礎の他に、イオン排除作用、ポストカラム誘導体化法、種々な検出器(電気伝導度、紫外可視吸光度計、ICP-MS等)、河川水や工場排水等の一般的な水質検査に用いられる試料前処理等を出題します。

全体的に、初段と比べ、ICの実用的な専門・基礎知識を問う試験問題となります。

3. 試験方法

これまで対面で行ってございました本試験は、リモート方式をとることになりました。本システムでは、2つのカメラと4つのAI検出で不正を見逃さないことを特徴といたします。受験者の皆様には初めての試みで不安な点などあると思いますが、何卒ご理解いただけますと幸いです。

リモートwebテストの受験に関する詳細は、IC研究懇談

会 HP の IC 分析士のページにあります <https://youtu.be/jszWBDw7Y2o> の動画をご覧ください。

4. 申込方法：オンライン (Microsoft forms)

4-1. 申込手順：イオンクロマトグラフィー研究懇談会 (IC 研究懇談会) のホームページ (<https://www.jsac.or.jp/~ic/>) から入っていただき、トップページの「イオンクロマトグラフィー分析士」の「IC 分析士受験申込」をクリックしてください。これより、申込フォームに入ることができます。必要事項をご記入の上、送信ボタンを押していただきますと完了し、電子メールで申込の完了が通知されます。なお、申込フォームからデータ送信ができない、または申込が完了しているのにメールに通知が来ない場合は、IC 研究懇談会事務局 (ic@jsac.jp) へお問合せください。

4-2. 受験料：本試験の受験料は試験の実施に係る費用に加え、分析士の登録料を含めて 11,110 円 (税込) となっております。本システムを用いた試験では、二段の試験を不合格になった場合、再受験する方の受験料を 6,600 円 (税込) とさせていただきます。

4-3. 受験料支払方法：申込フォームで選択された受験料振込先に 2022 年 1 月 16 日までに振込をお願いいたします。領収書が必要な場合は IC 研究懇談会事務局 (ic@jsac.jp) にお問い合わせください。

4-4. 受験申込期日：2022 年 5 月 27 日 (金) 午後 5 時

5. リモート試験の受験準備並びに試験中のトラブル Q & A

リモート試験の受験準備と試験中のトラブルについては、IC 研究懇談会 HP の IC 分析士のページにあります「リモート試験の受験準備並びに試験中のトラブル Q & A」をご参照ください。

問合せ先 〒780-8520 高知県高知市曙町 2-5-1 高知大学理工学部 イオンクロマトグラフィー研究懇談会事務局 森勝伸・森みかる [電話：088-844-8306, E-mail：ic@jsac.jp]

2022 年度液体クロマトグラフィー (LC) 分析士二段認証試験実施のお知らせ

標記につき、下記要領で実施する予定ですのでお知らせいたします。

日時 2022 年 7 月 6 日 (水) 14 時～16 時

会場 五反田文化会館〔東京都品川区西五反田 1-32-2, 交通：JR・都営地下鉄「五反田」駅より徒歩 3 分〕

二段資格のイメージ 各種分析士に共通するものとして、「手順書、作業マニュアル、規格を見れば、自分で計画して業務を遂行出来るレベル。当該分析・測定技術に関連する物理、化学、生物、電気、機械等の基礎知識を有し、装置等の日常点検、保守等も行える。」と規程されます。液体クロマトグラフィー分析士においては「HPLC 装置とそれぞれのパーツの内容や原理の理解が十分に有る。HPLC を用いた試験について、正確な操作を行う事が出来る。簡単な部品の交換が自分で出来る。」事が求められます。なお、試験問題としては科学の各分野並びに化学・分析化学一般に関する知識を問う内容が約 40% 含まれます。

受験料 6,600 円 (合格者は登録料 3,300 円を別途申し受けます)

受験資格 受験できる方はこれまでに行われた液体クロマトグラフィー分析士初段試験に合格し、登録された方に限ります。

申込方法 受験料の銀行振込後、専用ホームページ (<https://forms.gle/1dPaymP7ZxkPmpRc8>) にアクセスして必要事項を入力してください。

申込締切 6 月 29 日 (水)。会場に定員制限がありますので、入金順に受験番号を発行します。

振込銀行口座 りそな銀行五反田支店普通預金 0802349 名義：公益社団法人日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会 ((シヤ) ニホンブンセキカガクカイエキタイクロマトグラフィー)。一度お振込いただいた受験料は返却しません。万一、コロナ禍等で試験が中止された場合には、次回の受験料を免除します。

問合せ先 (公社) 日本分析化学会・LC 研究懇談会・分析士認証専門部会 [nakamura@jsac.or.jp]

2022 年度 LC/MS 分析士二段認証試験実施のお知らせ

標記につき、下記要領で実施する予定ですのでお知らせいたします。

日時 2022 年 7 月 15 日 (金) 14 時～16 時

会場 五反田文化会館〔東京都品川区西五反田 1-32-2, 交通：JR・都営地下鉄「五反田」駅より徒歩 3 分〕

二段資格のイメージ 各種分析士に共通するものとして、「手順書、作業マニュアル、規格を見れば、自分で計画して業務を遂行出来るレベル。当該分析・測定技術に関連する物理、化学、生物、電気、機械等の基礎知識を有し、装置等の日常点検、保守等も行える。」と規程されます。LC/MS 分析士においては「LC/MS 装置とそれぞれのパーツの内容や原理の理解が十分に有る。LC/MS を用いた試験について、正確な操作を行う事が出来る。簡単な部品の交換が自分で出来る。」事が求められます。なお、試験問題としては科学の各分野並びに化学・分析化学一般に関する知識を問う内容が約 40% 含まれます。

受験料 6,600 円 (合格者は登録料 3,300 円を別途申し受けます)

受験資格 受験できる方はこれまでに行われた LC/MS 分析士初段試験に合格し、登録された方に限ります。

申込方法 受験料の銀行振込後、専用ホームページ (<https://forms.gle/eVkv6JGBsSW5oLEq9>) にアクセスして必要事項を入力してください。

申込締切 7 月 8 日 (金)

振込銀行口座 りそな銀行五反田支店普通預金 0802349 名義：公益社団法人日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会 ((シヤ) ニホンブンセキカガクカイエキタイクロマトグラフィー)。なお、一度お振込いただいた受験料は返却しません。万一、コロナ禍等で試験が中止された場合には、次回の受験料を免除します。

問合せ先 (公社) 日本分析化学会・LC 研究懇談会・分析士認証専門部会 [nakamura@jsac.or.jp]

第 37 回分析化学における不確かさ研修プログラム —受講者募集—

主催 日本電気計器検定所、(公社) 日本分析化学会
測定結果の信頼性の指標としての不確かさの評価がますます重要となってきています。日本分析化学会においてもエキスパートワークショップやセミナー等によりその普及と教育に努めてきました。

また、日本電気計器検定所 (JEMIC) は、「計量標準等トレーサビリティ導入に関する標準化調査研究委員会」と「計測標準フォーラム人材育成 WG」が共同で開発した不確かさ研修プログラムにより不確かさの研修を実施してきました。

日本電気計器検定所と日本分析化学会は、これらの不確かさ研修を参考に2006年、「楽しく・簡単に・解かり易く」をテーマとして、不確かさの計算が分かりやすく理解できるよう演習を多く取り入れた「分析化学における不確かさ研修プログラム」(2日間コース)を開発しました。

この研修では、

- ・受講者1人1人が理解することを最優先に考えたセミナー
- ・“楽しく簡単に解かり易く”不確かさの計算方法を解説
- ・多くの演習問題を解くことで講義内容を十分理解できる
- ・複数の講師が演習問題を通して、各受講者の理解のお手伝いをする。

ことを特徴としています。講師が一方向的に説明や講義を行うのではなく、受講者の理解度を確認しながら対話方式で進めていきます。

期日 2022年7月21日(木)・22日(金)

会場 日本電気計器検定所本社〔東京都港区芝浦4-15-7、電話：03-3451-1205、交通：JR「田町駅」芝浦口(東口)から徒歩約13分または都営浅草線・都営三田線「三田駅」A4(JR田町駅方面)出口から徒歩約15分〕

アクセス https://www.jemic.go.jp/kihon/m_honsha.html

対象者

- ・不確かさの計算方法を初歩から学びたい方
- ・不確かさの計算方法を社内教育等の参考にした方

講義内容

第1日(9:30~16:30)

1. イントロダクション
2. 演習：温度の測定
3. 不確かさとは何か？(不確かさの概要や必要性など)
4. 用語について1(JISK0211:2013分析化学用語(基礎部門)の説明)
5. 不確かさ評価の概要(タイプAとタイプBの不確かさの違いなど)
6. タイプAの不確かさ評価(タイプAの標準不確かさの求め方)
7. 演習：タイプAの不確かさ評価(タイプAの標準不確かさを求める演習)
8. 確率分布について1(タイプBの評価に用いられる様々な確率分布について)
9. タイプBの不確かさ評価(タイプBとしてどのような不確かさの要因があるかと具体的な数値化の説明)
10. 演習：タイプBの不確かさの要因(タイプBの要因を考察するグループ演習)
11. 確率分布について2(確率分布に応じた除数の説明)

第2日(9:30~16:30)

12. 初日のおさらい
13. 用語について2(不確かさの評価/計算に必要な用語の説明)
14. 不確かさの合成と拡張(タイプAの標準不確かさとタイプBとして評価した不確かさの合成とその拡張の説明)
15. 演習：不確かさの合成と拡張(合成標準不確かさと拡張不確かさを求める演習)
16. 実際の不確かさ評価の事例紹介(水道水中のナトリウムの測定)
17. 演習：間違い探し
18. 総合演習：拡張不確かさまでの計算
19. 不確かさの利用について(ILACの示す不確かさを考慮した適合性表明の指針の説明と実際に適合性表明に不確かさを用いている例と技能試験の紹介)
20. まとめ

募集定員 20名(定員に達し次第、締め切ります)。

申込締切 7月14日(木)

受講料 会員63,800円(日本分析化学会会員、JEMIC計測

サークル会員)、会員外74,800円

※昼食、テキスト代を含みます。消費税を含みます。

受講証明書の発行 受講者には「分析化学における不確かさ研修プログラム」を受講し、講習を受けたことを受講証明書を主催団体から発行します。

申込方法 日本電気計器検定所のホームページ(https://www.jemic.go.jp/gizyutu/j_keisoku.html)から「分析化学における不確かさ研修プログラム」用の受講申込書をダウンロードし、必要事項を入力のうえ、E-mailに添付してお申し込みください。なお、電話での申込は受け付けません。

送金方法 受講申込みをいただきますと、日本電気計器検定所から受講票と請求書をお送りしますので、指定口座に受講料をお振込みください。振込手数料は貴方でご負担ください。なお、受講料の返金はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

個人情報 本セミナーの受講申込みにより取得したお客様の個人情報は、本セミナーに係る連絡に利用するほか、次の目的のために利用することがあります。なお、お客様のお申出により、これらの取扱いを中止させることができます。①JEMIC計測技術セミナーに関するお知らせ、②各種校正試験業務、検定業務、基準器検査業務等に関するお知らせ、③定期刊行物の発送、購読期限及び会員の集いに関するお知らせ

喫煙に関するお願い 日本電気計器検定所では、健康増進法「受動喫煙の防止」の趣旨に従い、全館禁煙となっておりますので、ご了承ください。

問合先

〒108-0023 東京都港区芝浦4-15-7 日本電気計器検定所 JEMIC計測技術セミナー事務局(担当：長谷川)〔電話：03-3451-1205、E-mail：kosyukai-ky@jemic.go.jp〕

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツ304号(公社)日本分析化学会不確かさセミナー係〔電話：03-3490-3351、FAX：03-3490-3572、E-mail：koms@jsac.or.jp〕

2022年度液体クロマトグラフィー分析士三段 認証試験実施のお知らせ

標記につき、下記要領で実施する予定ですのでお知らせいたします。

日時 2022年8月4日(木)14時~16時

会場 五反田文化会館〔東京都品川区西五反田1-32-2、交通：JR・都営地下鉄「五反田」駅より徒歩3分〕

三段資格のイメージ 各種分析士に共通するものとして、「新しい分析法を開発し、その妥当性確認(Method validation)を計画し、実施出来るレベル。当該分析・測定技術に関連する学術的知識に詳しく、経験が深い。」と規程されます。液体クロマトグラフィー分析士においては「HPLCを用いた試験に関連する前処理に関する知識が十分である。与えられた公定法や論文を正確に読みこなし、自らその試験を行うかSOPを作成する事が出来る。」事が求められます。なお、試験問題としては科学並びに分析化学一般に関する知識を問う内容が約30%含まれます。

受験料 7,700円(合格者は登録料4,400円を別途申し受けます)。入金確認後、受験番号をお知らせします。

受験資格 受験できる方はこれまでに行われた液体クロマトグラフィー分析士二段試験に合格し、登録された方に限ります。

申込方法 受験料の銀行振込後、専用ホームページ(<https://forms.gle/iXPX5JGwagQHqF1A8>)にアクセスして必要事項を入力してください。

申込締切 7月28日(木)

振込銀行口座 りそな銀行五反田支店普通預金 0802349 名義：公益社団法人日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会((シャ)ニホンブンセキカガクカイエキタイクロマトグラフィー)。一度お振込いただいた受験料は返却しません。万一、コロナ禍等で試験が中止された場合には、次回の受験料を免除します。

問合せ先 (公社)日本分析化学会・LC研究懇談会・分析士認証専門部会 [nakamura@jsac.or.jp]

2022年度 LC/MS 分析士三段認証試験実施のお知らせ

標記につき、下記要領で実施する予定ですのでお知らせいたします。

日時 2022年8月12日(金)14時~16時

会場 五反田文化会館〔東京都品川区西五反田1-32-2、交通：JR・都営地下鉄「五反田」駅より徒歩3分〕

三段資格のイメージ 各種分析士に共通するものとして、「新しい分析法を開発し、その妥当性確認(Method validation)を計画し、実施出来るレベル。当該分析・測定技術に関連する学術的知識に詳しく、経験が深い。」と規程されます。LC/MS分析士においては「LC/MSを用いた試験に関連する前処理に関する知識が十分である。与えられた公定法や論文を正確に読みこなし、自らその試験を行うかSOPを作成する事が出来る。」事が求められます。なお、試験問題としては科学並びに分析化学一般に関する知識を問う内容が約30%含まれます。

受験料 7,700円(合格者は登録料4,400円を別途申し受けます)。入金確認後、受験番号をお知らせします。

受験資格 受験できる方はこれまでに行われたLC/MS分析士二段試験に合格し、登録された方に限ります。

申込方法 受験料の銀行振込後、専用ホームページ(<https://forms.gle/v4tcVayyaVdL1J8k9>)にアクセスして必要事項を入力してください。

申込締切 8月5日(金)

振込銀行口座 りそな銀行五反田支店普通預金 0802349 名義：公益社団法人日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会((シャ)ニホンブンセキカガクカイエキタイクロマトグラフィー)。一度お振込いただいた受験料は返却しません。万一、コロナ禍等で試験が中止された場合には、次回の受験料を免除します。

問合せ先 (公社)日本分析化学会・LC研究懇談会・分析士認証専門部会 [nakamura@jsac.or.jp]

第39回無機・分析化学コロキウム

主催 (公社)日本化学会東北支部
共催 (公社)日本分析化学会東北支部

期日 2022年5月28日(土)

会場 東北大学青葉山キャンパス・理学研究科大講義室・ハイブリッド形式(コロナウイルス感染拡大の状況によっては完全オンライン開催)

<https://www.sci.tohoku.ac.jp/campusmap/>

招待講演

- 反応性金属クラスターの合成と触媒開発へのアプローチ(福島県立医大)田辺 真
- 分子低次元系の新展開(東北大院理)坂本良太
- ハーバー・ボッシュ法を超えるアンモニア合成法への挑

戦(東大院工)西林仁昭

他2件

依頼講演

- 単一粒子分光分析による大気中の多相反応過程の動態解明(東北大多元研)玄 大雄
- ガス応答を示す発光性配位高分子を用いた励起状態ダイナミクスの制御(東北大金研)芳野 遼
- 三重鎖形成ペプチド核酸プローブによるRNA二重鎖構造検出(東北大院理)西澤精一

他2件

参加費 無料

参加申込締切 定員(100名)になり次第、締切といたします。

参加申込方法 下記のGoogle Formにてお申し込みください。
<https://forms.gle/75cUmyEQKYP8tEAN7>

申込・問合せ先 〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 理学研究科合同C棟N607 東北大学大学院理学研究科化学専攻 長田浩一〔電話：022-795-6540, E-mail: koichi.nagata.d3@tohoku.ac.jp〕

第89回日本分析化学会有機微量分析研究懇談会 第119回計測自動制御学会力学量計測部会 第39回合同シンポジウム

主催 (公社)日本分析化学会有機微量分析研究懇談会

共催 (公社)計測自動制御学会力学量計測部会

協賛 (公社)日本分析化学会、(公社)日本化学会、(公社)日本薬学会

期日 2022年6月23日(木)・24日(金)

会場 オンライン

プログラム

1日目(23日)

10.10~11.30 Oral Presentation 1

OG-01 新しい有機元素分析用標準試料を検討するワーキンググループの進捗報告(東京大学¹、愛媛大学²、埼玉大学³、富山大学⁴、岩手大学⁵、山形大学⁶、明星大学⁷)
○坂本和子¹、鎌田浩子²、加藤美佐³、郡 衣里⁴、水戸部祐子⁵、水沼里美⁶、佐藤重矢子³、高木美緒¹、上本道久⁷

OG-02 有機元素分析計と計算処理機の変遷(静岡県立大学薬学部)○佐藤綾子

OG-03 高周波誘導加熱を用いた燃焼イオンクロマトグラフィーの応用(日東精工アナリティック)○仲尾啓子、林 則夫

OG-04 ハロゲン及び硫黄を含む有機・無機混合試料の燃焼イオンクロマトグラフィー(ナックテクノサイエンス¹、ヤナコ機器開発研究所²)
○長嶋 潜¹、出羽 好²、服部隆俊²

11.30~11.50 企業セッション

12.00~14.00 企業&ユーザーミーティング1

14.00~15.20 Oral Presentation 2

OY-01 ナフタレン骨格を有する環状芳香族アミドの合成と結晶構造(千葉大学)○梶田颯人、梶飛雄真

OY-02 共結晶におけるハロゲン結合を用いたネットワーク構造の構築(千葉大学)○大串裕也、小瀧基支、梶飛雄真

OY-03 共鳴X線回折手法でみる固体中電子の風変わりな秩序状態(北海道大学大学院理学院)○今布咲子

OY-04 超音波でみる固体中の新しい量子自由度(北海道大学大学院理学院)○日比野瑠央

15.30~16.30 Plenary Lecture 1

PL-01 「新型コロナウイルス治療薬開発に向けた北大創

薬センターの取り組み」(北海道大学大学院薬学研究院教授) 前仲勝実

2日目(24日)

10.05~11.05 Oral Presentation 3

OG-05 新しい1キログラムの作り方(産業技術総合研究所計量標準総合センター) ○倉本直樹, 藤田一慧, 大田由一

OG-06 ザルトリウスはかり校正用アプリケーションソフトウェアの新機能について(ザルトリウス・ジャパン LPS サービス部 JCSS 校正室) 矢倉峰伯, ○五味 淳, 松浦広一

OG-07 31P NMRによる食品に含まれるリン脂質の定量に関する検討試験(日本食品分析センター) ○加藤毅, 山本佳奈, 笛木周平, 水口恵美子, 五十嵐友二

11.10~11.50 Oral Presentation 4

OG-08 定量NMR法による日局抗生物質標準品の純度解析(微生物化学研究所¹, 国立感染症研究所²) ○久保田由美子¹, 澤 竜一¹, 松井真理², 近田俊文², 鈴木里和²

OG-09 水素結合部位を有する球状芳香族アミドの合成と結晶構造(千葉大学) ○榎飛雄真, 菅原淳平, 唐松里帆

12.00~14.00 企業&ユーザーミーティング 2

14.00~15.00 Oral Presentation 4

OY-05 低濃度リン酸態リンの定量に向けた水相パッシブサンプラーの開発(北海道大学大学院工学研究院) ○佐野航士, 奥田雄真, 羽深 昭, 木村克輝

OY-06 酸化還元可逆な電子伝達剤を用いた多層色素担持ニオブ酸光触媒による光水素生成(北大院総化¹, 北大院理², 京大院工³) ○吉村修隆¹, 吉田将己², 富田修³, 阿部 竜³, 小林厚志²

OY-07 2相系オルガノソルブ処理を用いたリグノセルロース系バイオマスの成分分離と各成分の高度利用(北海道大学) ○石丸裕也, 吉川琢也, 川又勇来, 松本美涼, 中坂佑太, 増田隆夫

15.10~16.10 Plenary Lecture 2

PL-02 「結晶なのに柔らかい(?) 高秩序で柔軟な応答系-ソフトクリスタルの光機能」(関西学院大学生命環境学部教授/北海道大学名誉教授) 加藤昌子

参加登録費 主催・共催および協賛学会会員: 3,000円(5月20日(金)まで), 3,500円(5月21日(土)~6月14日(火)), 非会員: 5,000円, 学生: 2,000円, 講演要旨集のみ(送料込): 3,000円

申込・問合先 〒001-0021 北海道札幌市北区北21条西11丁目 シオノギ創薬イノベーションセンター2階 北海道大学創成研究機構グローバルファシリティーセンター機器分析受託部門 武田希美 [電話: 011-706-9183, E-mail: symposium2022@gfc.hokudai.ac.jp]
大会ホームページ (<https://www.gfc.hokudai.ac.jp/EA2022/top.html>)

第372回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催 (公社) 日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会

これまで主流であった低分子医薬に加え, 近年, 核酸やペプチド医薬に代表される中分子医薬, 抗体医薬に代表される高分子医薬などの様々なモダリティの開発が活発に進められている。これら医薬品の開発に欠くことのできない多種多様な創薬研究において, 質量分析計の役割は極めて高い。本例会では, バイオ医薬品等の分析に焦点をおき, 質量分析メーカーを中心

に, 現状の進展について講演いただきます。

期日 2022年6月23日(木) 13.00~17.00

会場 Zoom オンライン会場

講演主題 バイオ医薬品分析におけるMSの挑戦

講演

講演主題概説(オーガナイザー)(13.00~13.05)

(株)東レリサーチセンター) 竹澤正明

1. 最新技術によるバイオ医薬品分析(13.05~13.35)

(株)エービーサイエックス) 加藤尚志

(LC分析士三段, LC/MS分析士二段)

2. Smart MSによるバイオ医薬品の特性解析(13.35~14.05)

(日本ウォーターズ(株)) 矢田絵都子(今年度受験予定)

3. 多次元HPLC-MSを利用したバイオ医薬品の最新分析事例(14.05~14.35)

(アジレント・テクノロジー(株)) 瀬崎浩史

(LC分析士初段, LC/MS分析士初段)

休憩(14.35~14.50)

4. 新たな創薬モダリティ開発における高分解能MSの活用(14.50~15.20)

(サーモフィッシュャーサイエンティフィック(株))

永島良樹(LC/MS分析士初段)

5. nSMOL Antibody BA Kitを用いた抗体医薬品のLC-MS/MS高感度定量(15.20~15.50)

(株)島津製作所) 渡邊 淳(LC/MS分析士初段)

6. イオンモビリティを用いたバイオ医薬品の分析(15.50~16.20)

(株)東レリサーチセンター) 竹澤正明

(LC分析士三段, LC/MS分析士五段)

7. バイオ医薬品に求められるMS(16.20~16.50)

(東京理科大学) 中村 洋

(LC分析士五段, LC/MS分析士五段)

参加費 LC研究懇談会個人会員: 1,000円, 協賛学会(日本分析化学会, 日本薬学会, 日本化学会)及び後援学会(日本農芸化学会)会員: 3,000円, その他: 4,000円, 学生: 1,000円. 参加申込締切日後の受付はできませんので, ご了承ください。

情報交換会 講演終了後, 講師を交えて情報交換会を開催します(会費1,000円). 締切日後のご参加はできませんので, 参加希望者は必ず事前にお申込みください。

参加申込及び参加費等納入締切日 2022年6月16日(木)(入金締切時刻: 15時まで)

申込方法 参加希望者は, 下記申込先にアクセスし, 氏名, 勤務先(電話番号), LC会員・協賛学会会員・その他の別及び情報交換会参加の有無を明記の上, お申込みください。お申込みが完了した場合には, 登録されたアドレス宛に「第372回液体クロマトグラフィー研究懇談会申込み受付(自動返信)」のメールが届きます。メールが届かない場合は, 世話人までお問い合わせください。参加費の納入が確認できた方には, 6月17日以降に①例会サイト入場URLと②「視聴者用操作マニュアル」をお送りします。また, 情報交換会参加費納入者には, ③情報交換会サイト入場URLをお知らせいたします。なお, 請求書と領収書の発行はいたしていません。領収書は, 振込時に金融機関が発行する振込票等をもって替えさせていただきます。

申込先 <https://forms.gle/NuRfgPaL7ZBvpSP47>

銀行送金先 リソナ銀行五反田支店(普通)1754341, 口座名義: シヤ)ニホンブンセキカガクカイ(公益社団法人日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会)

問合先 (公社) 日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会 世話人 (株)東レリサーチセンター 竹澤正明 [E-mail: masaaki.takezawa.f9@trc.toray]

2022年度「ぶんせき講習会」(実践編)第67回 機器による分析化学講習会

～ICP発光分光, 蛍光X線および示差走査熱量計を
基礎から学び実践する～

主催 (公社) 日本分析化学会近畿支部, 近畿分析技術研究懇話会

協賛 (公社) 化学工学会関西支部, (一社) 近畿化学協会, (公社) 日本化学会近畿支部, (公社) 有機合成化学協会関西支部, (公社) 高分子学会関西支部, (一社) 日本鉄鋼協会関西支部, (公社) 日本金属学会関西支部, 関西分析研究会

ICP発光分光分析(ICP-OES)は, 多くの元素の高感度分析が可能であるため無機分析の汎用法として利用されています。蛍光X線分析は, 各元素をX線で励起する試料非破壊の迅速分析法です。熱分析の一つである示差走査熱量計測(DSC)は, 高分子材料の構造相転移等の物性評価やタンパク質の熱安定性評価に広く利用されています。本講習ではこの3種類の分析装置の基礎原理を学び, 最先端応用にふれていただき, 実際に装置実習を行っていただきます。実習では測定ノウハウからデータの解析方法を習得できます。各装置を前にして少人数で装置を扱うことができますので, 質疑応答を交えながらじっくりと実習を体験できます。

期日 2022年7月8日(金) 9.50~17.00(受付9.30~)

会場 (株)日立ハイテクサイエンス・サイエンスソリューションラボ大阪〔大阪市淀川区宮原3-3-31 上村ニッセイビル18F, 電話:090-2769-0647, 交通:地下鉄御堂筋線新大阪駅4番出口より徒歩5分〕

<https://www.hitachi-hightech.com/hhs/about/corporate/location/osaka.html>

講習プログラム

1. 講義「メーカー技術者による測定原理の基礎」(9.50~11.20) (株)日立ハイテクサイエンス
①最新機器の紹介(ゼーマン原子吸光, マルチ/シーケンシャルICP-OES) 夏井克己氏
②蛍光X線分析の基礎と応用(膜厚測定とマッピング) 泉山優樹氏
③熱分析TG/DTA及びDSCの基礎と応用(試料観察分析) 高橋秀裕氏
2. 講義「プラズマ分光分析法による超微量分析技術の進歩と将来-温故知新に学ぶ分光分析-」(11.30~12.05) (関西学院大学) 千葉光一氏
3. 講義「DSCを用いたタンパク質の安定性解析」(12.05~12.40) (京都府立大学) 高野和文氏
4. 実習(13.45~16.45, 質疑応答を含む) (株)日立ハイテクサイエンス

実習項目

- ・誘導結合プラズマ(ICP)発光分析
- ・蛍光X線分析
- ・熱分析

*参加者には事前に電子メールにてPDF資料を送付します。
*当日はテキストの配布は行いませんので各自でPDFを印刷しての持参, あるいはタブレット等での準備をお願いします。

*セキュリティの関係で建物の自由な出入りが困難なため, 主催者側でご昼食を用意します。

参加費 主催・協賛団体所属会員:11,000円, 学生:6,000円, 会員外:21,000円

参加申込締切 7月1日(金), 定員(20名)。お申込受付は先着順とし, 定員になり次第締め切ります。7月2日以降のキャンセルは不可。

申込方法 参加を希望される方は, 近畿支部HP(<http://www.bunkin.org/>)から本講習会のページに入ってください。

【参加申込フォーム】にてWebからお申し込みください。

- *お申込み後, 自動返信メールが届きましたら, 開催日までに参加費のお支払いをお願いいたします。参加費は銀行口座(りそな銀行御堂筋支店, 普通預金No.2340726, 名義:公益社団法人日本分析化学会近畿支部)にお振り込みください。
- *参加証と会場案内図・テキストダウンロード情報などをメールにて送付します。当日, この参加証を持参してください。
- *参加決定者には団体傷害保険に加入していただきます。保険料は参加費に含まれます。
- *同業者のご参加は, ご遠慮いただいております。
- *参加人数によりませんが, お一人様の実機操作時間は, 各装置あたり10分以下となります。

申込先 〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4 大阪科学技術センター6階 (公社) 日本分析化学会近畿支部〔電話:06-6441-5531, FAX:06-6443-6685, E-mail:mail@bunkin.org, 近畿支部HP:<http://www.bunkin.org/>〕

問合せ先 甲南大学 岩月聡史〔E-mail:iwatsuki@konan-u.ac.jp〕

北陸地区講演会

主催 (公社) 日本分析化学会中部支部

期日 2022年7月8日(金) 14.15~17.00

会場 富山大学共通教育棟(A棟)D12番教室〔富山市五福3190, 交通:①市内電車を利用する場合にはJR富山駅前市内電車「富山駅」より「富山大学前」行に乗り, 終点「富山大学前」より徒歩約8分, ②バスを利用する場合はJR富山駅前, バス乗場3番より乗車, 「富山大学前」下車, 徒歩約5分〕

講演

1. SDGsに貢献できる分析化学 (金沢大理工) 長谷川浩
2. 持続可能な淡水地下水利用のための地球科学的研究紹介-沖縄県南大東島の例-(富山大院理工(理)) 梁 熙俊
3. プラズモン共鳴を示すナノ粒子の光学特性とその応用 (富山大院理工(理)) 西 弘泰

参加費 無料

意見交換会等 講演会終了後富山駅周辺で行います。詳細(会場, 会費等)につきましてはお問い合わせください。参加希望者は6月17日(金)までに, E-mailにて下記の申込先までお申し込みください。なお, 件名に「講演会」または「意見交換会」を入れてください。

申込・問合せ先 〒930-8555 富山市五福3190 富山大学大学院理工学研究部(理学)自然環境科学科 佐澤和人〔電話:FAX:076-445-6670, E-mail:sazawa@sci.u-toyama.ac.jp〕

第27回高分子分析討論会

(高分子の分析及びキャラクターゼーション)

—研究発表募集—

主催 (公社) 日本分析化学会高分子分析研究懇談会

高分子分析・特性解析全般に関する討論です。高分子分析は物性発現機構を解明し, 構造設計の指針を得る基盤であり, その重要な認識は高まっています。高分子分析・キャラクターゼーションを対象とした本討論会の内容は, 化学的手法, 分光学的的手法, 各種クロマトグラフ法, 熱分析法などによる組成, 分子構造, 高次構造, 構造と物性の相関, 物性発現機構, 重合機構等の解析に関する基本原理, 手法開発, 解析事例などに及びます。

お知らせ

期日 2022年10月27日(木)・28日(金)

会場 名古屋国際会議場 白鳥ホール〔名古屋市熱田区熱田西町1-1, 交通: 地下鉄名城線「西高蔵」駅もしくは地下鉄名港線「日比野」駅徒歩5分〕

<https://www.nagoya-congress-center.jp/>

発表形式 (COVID-19の感染状況によって変更になる場合があります。)

討論を重視するため、発表はすべてポスター発表のみとし、これに先立って2分半の口頭による概要説明を行います。このほかに特別講演を予定しています。優秀なポスターへの表彰を予定しております。

研究発表会申込方法

1. 発表内容には既発表のものを含んでいても構いません。また、新しい試みであれば、研究途中のものでも差し支えありません。
2. 高分子分析研究懇談会ホームページからお申し込みください。ホームページからの申し込みができない場合には、下記に問い合わせください。
3. 講演要旨執筆要領はホームページに掲載します。
4. ポスター発表のプログラム編成は実行委員会に一任願います。

発表申込締切 7月8日(金)

発表要旨締切 8月26日(金)

研究発表申込先 高分子分析研究懇談会ホームページ (<http://www.pacd.jp/>)

その他

発表者は第27回高分子分析討論会の参加登録もお願いいたします。

参加費 予約登録(10月6日締切) 一般: 10,000円, 学生: 2,000円

当日登録(10月6日以降) 一般: 14,000円, 学生: 3,000円

今回はCOVID-19感染症対策として懇親会は開催いたしません。ご了承ください。

問合先 〒572-8530 大阪府寝屋川市初町18-8 大阪電気通信大学工学部基礎理工学科 森田成昭〔電話: 072-824-1131(呼), E-mail: pacd-touron@pacd.jp〕

—以下の各件は本会が共催・協賛・後援等をする行事です—

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

界面コロイドラーニング

—第38回現代コロイド・界面化学基礎講座—

主催 (公社)日本化学会コロイドおよび界面化学部会

期日 2022年6月2日(木)・3日(金)

会場 オンライン開催

ホームページ

<https://colloid.csj.jp/category/seminar/>

連絡先 第38回現代コロイド・界面化学基礎講座事務局
〔E-mail: jigyokukikaku_01@colloid.csj.jp〕

プラズマ分光分析研究会 2022 筑波セミナー

主催 プラズマ分光分析研究会

期日 2022年6月30日(木)・7月1日(金)

会場 つくば国際会議場中会議室202およびオンライン

ホームページ <http://plasma-dg.jp/>

連絡先 プラズマ分光分析研究会事務局 沖野晃俊〔電話・FAX: 045-924-5688, E-mail: office@plasma-dg.jp〕

第3回オンライン真空講習会入門講座

主催 (公社)日本表面真空学会

期日 オンデマンド講義受講可能期間: 2022年7月5日(火) 12時~8月31日(水) 12時

会場 オンライン (オンデマンド講義: AirCourse)

ホームページ <http://www.jvss.jp/>

連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷5-25-16 石川ビル5階 (公社)日本表面真空学会 事務局〔電話: 03-3812-0266, E-mail: office@jvss.jp〕

第8回メタロミクスに関する国際会議

The 8th International Symposium on Metallomics ;
ISM-8

主催 ISM-8 組織委員会

期日 2022年7月11日(月)~14日(木)

会場 金沢商工会議所会館

ホームページ <http://www.ism-8.jp/>

連絡先 ISM-8 組織委員会〔E-mail: ism-8@senkyo.co.jp〕

第34回バイオメディカル分析科学シンポジウム (BMAS2022)

主催 (公社)日本薬学会物理系薬学部会

期日 2022年9月2日(金)・3日(土)

会場 日本大学薬学部

ホームページ <https://sites.google.com/view/bmas2022/>

連絡先 〒274-8555 千葉県船橋市習志野台7-7-1 日本大

学薬品分析学研究室 第34回バイオメディカル分析科学シンポジウム事務局〔電話：047-465-6137, FAX：047-465-2158, E-mail：pha.bmas2022@nihon-u.ac.jp〕

第2回オンライン真空応用技術講座

主催 (公社)日本表面真空学会
期日 オンデマンド講義受講可能期間：2022年9月5日(月)12時～10月31日(月)12時
会場 オンライン(オンデマンド講義：AirCourse)
ホームページ <http://www.jvss.jp/>
連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷5-25-16 石川ビル5階(公社)日本表面真空学会 事務局〔電話：03-3812-0266, E-mail：office@jvss.jp〕

第3回オンライン真空講習会

主催 (公社)日本表面真空学会
期日 オンデマンド講義受講可能期間：2022年9月5日(月)12時～10月31日(月)12時,
オンデマンド演習解説受講可能期間：2022年10月5日(水)12時～10月31日(月)12時,
リアルタイムでの「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の質疑応答(Webex Meetings)：2022年10月26日(水)16.00～16.45, 2022年10月27日(木)16.00～16.45, 2022年10月28日(金)16.00～16.45, ※3回とも同じ内容です。どれか1回にご参加ください。
会場 オンライン(オンデマンド講義：AirCourse, リアルタイムでの質疑応答：Webex Meetings)
ホームページ <http://www.jvss.jp/>
連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷5-25-16 石川ビル5階(公社)日本表面真空学会 事務局〔電話：03-3812-0266, E-mail：office@jvss.jp〕

第38回シクロデキストリンシンポジウム

主催 シクロデキストリン学会
期日 2022年9月10日(土)・11日(日)
会場 ソニックシティビル4階市民ホール
ホームページ <http://www.apc.saitama-u.ac.jp/cds38/>
連絡先 〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区大字下大久保255 埼玉大学大学院理工学研究科 物質科学専攻応用化学科 PG 石丸雄大〔電話・FAX：048-858-3537, E-mail：ishimaru@apc.saitama-u.ac.jp〕

「分析化学」年間特集「流」の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では2010年より「年間特集」を企画し2023年は「流」をテーマとすることと致しました。

本特集では「流」をキーワードとして分析化学における基礎・応用を含めて幅広い観点で見渡し、分析化学が担う役割を社会に向けて発信することを目的としています。本特集に関わる論文はすべての論文種目で年間を通じてご投稿いただくこと

が可能で、審査を通過した論文は単行の特集号を除く「分析化学」第72巻(2023年)合併号の冒頭に掲載する予定です。国内外、産学官を問わず、「流」に関わる分析化学の研究・開発に従事されている多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。なお、詳細は「分析化学」誌の6号及びホームページをご参照ください。

特集論文の対象：「流」に関連した分析化学的な基礎・応用に関する論文。例を以下に示します。1)液体や気体などの流れを利用した分析装置や分析手法の開発・応用、2)連続的に流れている河川や大気などの分析に関する研究、3)製造ラインなどの流れの中で利用する分析法の開発・応用、4)電子の流れを計測する電気分析化学的研究、5)原子・分子の流れを扱うシミュレーションを活用した分析化学的研究。

特集論文申込締切：2022年7月15日(金) (第1期)

特集論文原稿締切：2022年8月19日(金) (第1期)

「分析化学」編集委員会特集 “ウェルネスに貢献する分析化学”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」誌では、毎年第6号に「編集委員会特集」として特集号を企画しています。「編集委員会特集」では話題性の高い分析手法や分析分野に関連する論文を募集・掲載しています。

2023年度(第72巻)の「編集委員会特集」のテーマは、『ウェルネスに貢献する分析化学』に決定いたしました。ウェルネスは、医学的見地等から肉体的、精神的状態を判断する健康(ヘルス)を手段・基盤とし、より豊かに、より美しく、より輝く人生を目指していく過程と定義されています。ヘルスケア産業は、医療、健康、スポーツ分野から普及し、健康課題に敏感な高齢者層を対象とした受動的な産業であるのに対し、能動的に人生を豊かに彩るライフスタイルを目指すウェルネスは、パーソナルケア、アンチエイジング、フィットネス、食品、予防医療等を基に全世代をターゲットとした産業として注目を浴び、近年、その市場は急速に伸びています。

上記状況に鑑み、本特集では、ウェルネスに貢献する分析化学と題し、医療、福祉、スポーツ、食と農、美容、環境、IT等の様々な分野における分析化学を対象とした研究に着目することと致しました。ウェルネスに関連した、新たなサイエンスを切り拓くための基盤技術、およびその応用に関する論文の投稿をお待ちしております。なお、詳細は「分析化学」誌の6号及びホームページをご参照ください。

特集論文申込締切：2022年10月7日(金)

特集論文原稿締切：2022年12月2日(金)

初めて書く論文は母語の日本語で！ “第21回若手研究者の初論文特集”募集のお知らせ

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会では、2022年(第71巻)に第21回「若手研究者の初論文特集」を企画します。卒研究生、修士・博士課程院生並びに若手研究者の方々にとって、ご自分の研究成果を日本語で投稿できるよい機会です。なお、2019年より本特集を年間特集とし、都合の良いときに執筆して投稿できるようにしました。年間を通して論文原稿を受け付け、審査を経て掲載可になり次第随時掲載いたしますので、奮ってご投稿ください。

なお、詳細は「分析化学」誌HPをご参照ください。

「分析化学」の掲載料についてのお知らせ

「分析化学」誌では、2020年4月より論文掲載料を以下の計算式にしたがってお支払いいただき、pdfファイルを進呈することいたしました。なお、論文の別刷を希望される場合は、別途別刷頒布料金をお支払いいただくことにより購入することができます。

掲載料金計算式 (P:印刷ページ数) (単位:円)

会員の場合: $30,000 + 5,000 \times (P - 4)$ (印刷ページ数が14ページ以上は一律80,000円)

会員外の場合: $40,000 + 5,000 \times (P - 4)$ (印刷ページ数が14ページ以上は一律90,000円)

*上記に消費税がかかります。

ぶんせき誌「技術紹介」の原稿募集

『ぶんせき』編集委員会

分析化学は種々の分野における基盤技術であり、科学や産業の発達・発展だけでなく、安全で豊かな生活の実現に分析機器が大きく貢献してきました。近年の分析機器の高性能化・高度化は目覚ましく、知識や経験がなくても、微量物質の量や特性を測定できるようになりました。この急速な発展は、各企業が持つ高度で多彩な技術やノウハウによって達成されたといっても過言ではありません。一方、高度化された分析機器の性能・機能を十分に発揮させるためには、既存の手法に代わる新規な分析手法が必要であり、高度な分析機器に適合した分析手法や前処理手法の開発が分析者にとって新たな課題となっています。また、分析目的に合致した高純度試薬の開発に加えて、測定環境の整備、試薬や水の取り扱いなどにも十分な配慮が必要です。極微量の試料を分析する際には、測定原理を把握すると共に、手法や操作に関する知識・技能を身に付ける必要があると考えます。

このような背景に鑑み、『ぶんせき』誌では新たな記事として「技術紹介」を企画いたしました。分析機器の特徴や性能、機器開発に関わる技術、そしてその応用例などを紹介・周知することが分析機器の適正な活用、さらなる普及に繋がると考えており、これらに関する企業技術を論じた記事を掲載することといたしました。また、分析機器や分析手法の利用・応用における注意事項、前処理や操作上のコツなども盛り込んだ紹介記事を歓迎いたします。これらの記事を技術紹介集として、『ぶんせき』誌ホームページ内に蓄積することで、様々な分野における研究者や技術者に有用な情報を発信でき、分析化学の発展に貢献できるものと期待しております。分析機器や分析手法の開発・応用に従事されている多くの皆様方からのご投稿をお待ちしております。

記

1. 記事の題目:「技術紹介」
2. 対象:以下のような分析機器、分析手法に関する紹介・解説記事
 - 1) 分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術、
 - 2) 分析手法の特徴および手法開発に関わる技術、
 - 3) 分析機器および分析手法の応用例、
 - 4) 分析に必要な試薬や水および雰囲気などに関する情報・解説、
 - 5) 前処理や試料の取扱い等に関する情報・解説・注意事項、
 - 6) その他、分析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報など
3. 新規性:本記事の内容に関しては、新規性は一切問いません。新規の装置や技術である必要はなく、既存の装置や技術に関わるもので構いません。また、社会的要求が高いテーマや関連技術については、データや知見の追加などにより繰り返し紹介していただいても構いません。

4. お問い合わせ先:日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会
[E-mail: bunsaki@jsac.or.jp]

『ぶんせき』再録集 vol. 1 出版のお知らせ

ぶんせき誌の過去記事の有効利用の一環として、記事をまとめて書籍化するという試みを行っています。2021年5月10日に、『ぶんせき』再録集 vol. 1 が出版されました。この巻には、2011年から2020年まで、10年間分の〈ミニファイル〉の記事が詰まっています。たっぷり256ページ、2,750円(税込み)のお値打ち本です。多岐にわたる『知って得する分析化学の豆知識』を堪能できます。本書は下記10章からなり、それぞれに12から14の話題が集められています。

1. 実験器具に用いられる素材の特徴
2. 分析がかかわる資格
3. 顕微鏡と画像データ処理
4. 最新のweb文献検索データベース
5. ポータブル型分析装置
6. 分析化学と材料物性
7. 分析化学者のための多変量解析入門
8. 土壌分析
9. サンプルング
10. 前処理に必要な器具や装置の正しい使用法

過去のミニファイルをファイリングしておきたいときに、初学者への参考書をお探しのときに、また、非学会員の方に分析化学会のアピールをしたいときに、ぜひご活用ください。本書はアマゾンオンデマンド出版サービスを利用して出版した書籍ですので、書店には並びません。アマゾンサイトからのネット注文のみとなりますので、ご注意ください。ネットで「ぶんせき再録集」と入力して検索しても、すぐに出てきます。詳しくは「ぶんせき」誌ホームページをご確認ください。

日本分析化学会第71年会

【日本分析化学会第71年会実行委員会 Web サイト (講演申込)】

<https://confit.atlas.jp/jsac71nenkai>

【日本分析化学会第71年会講演申込スケジュール】

- ・講演申込締切日時：2022年6月9日(木)14時(厳守)
- ・講演要旨本文入力締切日時：2022年7月6日(水)14時(厳守)

会期 2022年9月14日(水)～16日(金)

日程 9月14日(水)：一般講演(口頭, ポスター), 若手講演(ポスター), テクノレビュー講演(口頭, ポスター), 受賞講演, 研究懇談会講演, ランチョンセミナー, 機器展示会

9月15日(木)：一般講演(口頭, ポスター), 若手講演(ポスター), テクノレビュー講演(口頭, ポスター), 受賞講演, 研究懇談会講演, 学会賞等授賞式, 学会賞受賞講演, 懇親会, ランチョンセミナー, 機器展示会

9月16日(金)：一般講演(口頭, ポスター), テクノレビュー講演(口頭, ポスター), 受賞講演, 研究懇談会講演, ランチョンセミナー, 機器展示会

※日程は変更する場合があります。

会場 岡山大学津島キャンパス〔岡山市北区津島中1-1-1, 交通：JR法界院駅より徒歩約10分, または, JR岡山駅より岡電バス約7～10分, 岡山空港より岡電バス JR岡山駅または岡山大学筋下車(ノンストップ便は岡山駅下車)〕

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/access_4.html

懇親会 9月15日(木)18時～20時(予定), 会場：ホテルグランヴィア岡山

募集発表形式 01：一般講演(口頭発表), 02：一般講演(ポスター発表), 03：若手講演(ポスター発表), 04：テクノレビュー講演(口頭発表), 05：テクノレビュー講演(ポスター発表)です。

【講演分類】

別記を参照ください。

【講演申込要項】

- 講演時間は、一般講演(口頭発表)は15分(講演12分, 討論3分)です。テクノレビュー講演(口頭発表)は30分(講演25分, 討論5分)で行います。すべてのポスター発表の時間は90分を予定しています。若手講演(ポスター発表), テクノレビュー講演(口頭・ポスター発表)の応募の詳細は別記を参照ください。プログラム編成の結果, 講演時間を変更することがあります。
- 本年会ではすべての口頭発表会場にプロジェクター, RGBケーブル, PC切替器, ポインターを用意します。講演者はデータの入ったノートパソコンを持参して講演発表を行ってください。詳細は年会HPをご覧ください。
- 講演する人(登壇者)は、講演申込時点において日本分析化学会の個人会員であること(テクノレビュー講演は除く)。会員は2022年会費が納入済みであること。個人会員以外で講演を希望する方は、学会HPからオンラインで学会への入会を先にお済ませください。
https://www.jsac.jp/kaiin/nyuukai_annai/
- 同一演題で発表形式を変えて(例えば口頭とポスター発表)重複講演することは認めません。

5. 関連ある複数の講演(口頭発表に限る)を連続して発表したい場合(一連発表)は、講演申込締切までに発表順序を登録してください。但し、発表形式、講演分類が一致している場合に限りです。

6. 発表内容等については、あらかじめ講演申込者の責任で関係機関及び連名者の同意を得てから講演申込を行ってください。発表内容等について問題が生じた場合でも、実行委員会、学会事務局は一切の責任を負いません。

7. 発表形式・講演分類の変更、講演日の決定、講演時間の調整など、プログラム編成に関する事項は、すべて実行委員会に一任してください。

8. 会場の都合で、口頭発表をポスター発表に変更する場合、またはその逆の場合は、事前に実行委員会より連絡します。

9. 講演申込者は、上記の各項を了承のうえ、講演申込を行ってください。

【講演申込方法】

Web申込に限ります。年会HPの「講演申込」や「講演申込と参加登録の方法と変更点」を熟読のうえ、講演申込登録及び要旨本文の入力を行ってください。郵送、FAX及び電子メールでの申込は一切受け付けません。講演申込登録締切日時を過ぎてのWeb上からの入力はできません。申込者のコンピュータ環境(ネットワーク環境を含む)が原因で講演申込の登録に不備をきたしても、実行委員会、学会事務局は一切責任を負いません。講演申込に関する緊急情報や変更点などのお知らせ、講演申込システム等の障害情報は速報性を考慮してすべて年会HP(または学会HP)に掲載しますので、適宜ご覧ください。本誌発行後に登録システムを予告なく変更する場合があります。最新情報等の詳細は年会HPを参照ください。

【第71年会講演申込等スケジュール】

講演申込締切日時：6月9日(木)14時(厳守)

注)登録締切日時までは講演申込内容の修正、講演要旨のアップロードが可能です。

要旨本文入力開始日時：6月14日(火)

注)講演要旨本文(画像を含む)はpdfファイルに変換してアップロードしてください。

要旨本文入力締切日時：7月6日(水)14時(厳守)

【若手講演(ポスター発表)募集】

主催 日本分析化学会第71年会実行委員会

共催 全国若手交流会

趣旨 分析化学は自然科学において重要な役割を果たすとともに、産業における技術革新の基盤となっています。その一方で、社会において分析化学の重要性を十分に認識してもらうには自らの情報発信が不可欠です。本企画では、分析化学の将来を担う学生及び若手研究者の方々に、自らの研究成果をアピールし、情報交換ならびに交流を深めていただきます。発表形式はポスター発表(90分)です。ポスター発表に關

お知らせ

しては従来通り、若手講演ポスター賞を選出いたします。奮ってご応募ください。

講演形式 「発表形式」の欄で“03：若手講演（ポスター）”を選択してください。

募集対象 概ね30歳以下の学生会員及び若手研究者（個人会員に限る）

講演申込方法 一般講演等に準じてオンライン（Web）上からお申し込みください。講演申込・要旨入力はすべて本年会申込・要旨入力等の諸規則に準じます。講演申込締切後の発表形式の変更はできません。

【テクノレビュー講演募集】

主催 日本分析化学会第71年会実行委員会

期日 9月14日（水）～16日（金）

会場 岡山大学津島キャンパス（年会会場）

講演形式 「発表形式」の欄で“04：テクノレビュー（口頭）”または“05：テクノレビュー（ポスター）”を選択してください。口頭発表は30分（講演25分、討論5分）、ポスター発表は90分の予定です。講演要旨はWeb版講演要旨集に掲載します。

講演料 口頭発表：1件50,000円、ポスター発表：1件30,000円。講演料には発表者の参加登録料1名分が含まれます。

講演申込方法 一般講演等に準じてオンライン（Web）上からお申し込みください。「発表形式」の欄で“04：テクノレビュー（口頭）”または“05：テクノレビュー（ポスター）”を選択してください。登壇者が会員外の場合には、年会事務局よりIDを発行いたします。講演申込・要旨入力はすべて本年会申込・要旨入力等の諸規則に準じます。

講演申込登録締切 一般講演等と同じ。

【Web版講演要旨集の発行日について】

第71年会Web版講演要旨集の発行日は、2022年9月2日（金）です。特許出願の際は、下記の特許庁ホームページを参照のうえ、専門家である弁理士にご相談いただきますようお願いいたします。なお、講演発表者の特許出願にあたり、特許法第30条1項（発明の新規性喪失の例外）の適用を受けるための手続きが簡素化されています。

詳細は下記の特許庁ホームページを参照ください。

<https://www.jpo.go.jp/index.html>

【ものづくり技術交流会 2022 in 中国四国】

主催 分析イノベーション交流会

共催 第71年会実行委員会、岡山県関係者

期日 9月16日（金）（予定）

場所 岡山大学津島キャンパス（年会会場）

参加費 無料（一般公開）

参加方法 直接会場へお越しください。

※詳細は年会HPに掲載いたします。

【機器・カタログ展示会及びランチョンセミナー】

機器展示会およびカタログ展示会を開催します。また、年会期間中の昼休みを利用してランチョンセミナーを開催します。応募の詳細は年会HPの「展示会等出展のお願い」を参照ください。

問合せ・申込先 〒104-0061 東京都中央区銀座7-12-4（友野本社ビル）（株）明報社（担当：後藤）〔電話：03-3546-1337、FAX：03-3546-6306、E-mail：info@meihosha.co.jp〕

【第71年会参加登録について】

本年会に参加する場合には、全員参加登録をしていただきます。また、研究発表の登壇者は年会への参加申込登録をしないと講演発表ができませんので、必ず参加登録をしてください（一部の特別講演講師及びテクノレビュー講演者を除く）。参加

申込の方法の詳細は年会HP及び「ぶんせき」誌7月号に掲載いたします。参加登録料及び懇親会参加費などは以下の通りです。

【参加登録料、懇親会参加費】

1. 参加登録料 オンライン開催の場合 予約：会員12,000円、学生会員4,000円、会員外21,000円、会員外学生7,000円〔当日：会員15,000円、学生会員6,000円、会員外24,000円、会員外学生8,000円〕 オンライン開催の場合 予約：会員9,000円、学生会員4,000円、会員外18,000円、会員外学生6,000円〔当日：会員11,000円、学生会員5,000円、会員外21,000円、会員外学生7,000円〕

注1) 会員には団体会員（維持会員）に所属する方を含みますが、特別会員および公益会員の場合は、1名に限り会員扱いとなります。

注2) ぶんせき3月号に掲載したオンライン開催の場合の会員外学生の参加登録料に誤りがありました。上述の通り、訂正いたします。

注3) 予約登録後にオンライン開催に変更になった場合には、参加登録料の差額は返金いたしません。予め、ご了承ください（懇親会費は返金いたします）。

2. 懇親会参加費（オンライン開催の場合のみ） 予約：一般10,000円、学生4,000円〔当日：一般12,000円、学生5,000円〕

（ご注意） 会員の方の参加登録料は不課税扱いです。会員外、会員外学生は税込金額です。懇親会参加費はすべて税込金額です。

【その他事項】

講演プログラム速報版は年会HPに7月下旬までに掲載予定です。

【宿泊及び託児所について】

1. 宿泊について

本年会への参加予定の方は、早めに各自宿泊予約されることをお勧めします。

なお、実行委員会ではホテル等の斡旋は行いません。

2. 託児所について

第71年会では託児所を開設する方向で準備を進めています。

事前申込が必要です。詳細は年会HPをご参照ください。

【講演分類一覧】

01：原子スペクトル分析（ICP-MSを含む）

02：分子スペクトル分析（吸光分析法、蛍光・リン光分析法、赤外・ラマン分析法、表面プラズモン共鳴など）

03：レーザー分光分析（顕微分光、レーザー励起発光、光熱変換分光、非線形分光など）

04：X線分析・電子分光分析・量子ビーム分析

05：放射線計測による分析・NMR（ESRなどを含む）・熱分析

06：電気化学分析

07：センサー、センシングシステム

08：質量分析

09：ナノ・マイクロ分析（ナノ・マイクロチップ、マイクロ分離システム、一分子検出系など）

10：フローインジェクション分析

11：液体クロマトグラフィー（LC/MSを含む）

12：ガスクロマトグラフィー（GC/MSを含む）

13：電気泳動分析（キャピラリー電気泳動など）

14：溶媒抽出法、固相抽出法、イオン交換法

15：分離・分析試薬の設計

16：分析化学反応基礎論（平衡論、速度論など）

17：データ処理理論（AI、ケモメトリックスなど）

18：標準物質・サンプリング、前処理

- 19: 界面・微粒子分析 (液液系, 固液系, ナノ粒子, SPM, 生体影響物質など)
- 20: 微粒子分析および微粒子利用分析 (ナノ粒子など)
- 21: 宇宙・地球に関する分析化学 (天体, 大気, 河川・湖水・海洋, 土壌など)
- 22: 環境関連分析 (環境汚染物質, 環境放射能, 粉じん, SPM, 生体影響物質など)
- 23: 無機・金属材料分析
- 24: 電池・エネルギー材料 (電池材料, 燃料電池材料, バイオマスなど)
- 25: 有機・高分子材料分析 (有機・無機複合体材料を含む)
- 26: 食品・農作物・ヘルスケア等分析 (野菜, 畜産, 食品添加物など, 遺伝子組換え, 農薬, 化粧品, サプリメントを含む)
- 27: バイオ分析 (プロテオーム解析, メタボローム解析, 再生医療にかかわる分析 (細胞, 培地, 足場材, 医療用材料) を含む)
- 28: バイオイメージング
- 29: 医薬分析 (不純物, ドーピング, 代謝物 (ADME), バイオ医薬など)・臨床分析 (法医学分析, POCT, 医療用センサー, *in vivo* 計測, バイオマーカーを含む)
- 30: その他

【各種お問い合わせ先】

1. 学会事務局

会員登録情報の変更, 会員 ID・パスワード及び年会全般に関する質問は日本分析化学会第71年会実行委員会事務局へお問い合わせください。

第71年会実行委員会事務局

〒700-8531 岡山市北区津島中 3-1-1 岡山大学学術研究院
自然科学学域

実行委員長 金田 隆

E-mail 71nenkai@gmail.com

電話: 086-251-7847

2. 実行委員会

会場等に関する質問は実行委員会へお問い合わせください。

第71年会実行委員会事務局

〒700-8531 岡山市北区津島中 3-1-1 岡山大学学術研究院
自然科学学域

実行委員長 金田 隆

E-mail 71nenkai@gmail.com

電話: 086-251-7847